第 10 号　2020 年 2 月

Swan Link

安来市在宅医療支援センター
〒692-0206
島根県安来市伯太町安田 1700 番地
ＴＥＬ　0854-37-9337
ＦＡＸ　0854-37-1448

この冬は暖冬ですね。
能義平野の白鳥はそろそろ北帰行が始まるでしょうか。
白鳥の旅立ちはさみしく感じますが、春の訪れを知らせてくれます。

今月号の内容

○第 8 回安来市地域連携室連絡会開催
○感染対策研修会開催
○第 6 回在宅看取り勉強会開催

第 8 回安来市地域連携室連絡会開催

2019 年 11 月 21 日(木)

今回は、安来市内特別養護老人ホームの相談員の皆さんと地域連携室の皆さんによる、情報・意見交換を行ないました。

各特別養護老人ホームの入所者・待機者の状況や医療処置への対応等について情報交換されました。

医療処置のある方の受入れについては、入所者全体の状況に応じて受入れを検討されているとのことでした。

また、近年は施設での看取りが増加してきており、あるホームでは退所者の 9 割がホームでの看取りによる退所とのことでした。都度、ご家族としっかり相談し意向を確認することが、とても重要になるとのお話がありました。

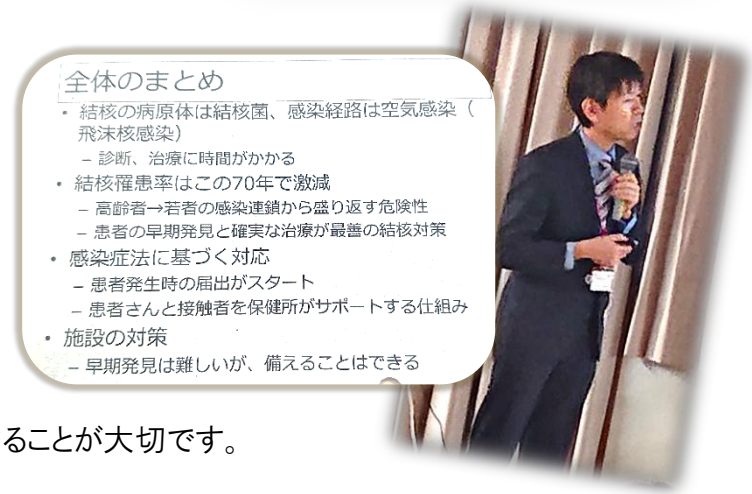
意見交換では、どのホームでもショートステイの利用者が減少傾向にあるとのことでした。予約が取れないと耳にすることが多いショートステイですが、日程調整を行なうことで、スムーズな利用に繋がるのではとの意見がありました。

感染対策研修会開催

2019 年 12 月 18 日(水)

松江市・島根県共同設置松江保健所主催により、安来市内介護事業所職員を対象とした『結核研修会』が開催されました。

「古くて新しい病気・結核～施設や地域で出来る事～」と「インフルエンザの予防と対策」について、島根県保健環境科学研究所　部長　柳楽　真佐実様の講演を拝聴しました。



正しい知識を持って感染拡大を防ぐこと、慌てず対応することが大切です。

第 6 回在宅看取り勉強会開催

2020 年 1 月 23 日(木)

今年度は、安来市内での在宅看取り事例を基に、在宅看取りにおける多職種の役割について理解を深めました。

事例の女性は、84 歳 独居 卵巣がん末期 本人・家族へ余命宣告がされ、自宅療養と時々入院を繰り返しながら、最期はご本人の希望する自宅で亡くなられました。

勉強会当日は、医師、ケアマネジャー、訪問看護師、薬剤師、訪問リハビリ、デイサービス、訪問ヘルパー、訪問入浴、福祉用具と在宅療養に関わった担当者 9 名全員がそれぞれの支援を振り返り、想いを発表しました。

その後のグループワークでは、参加者と共に在宅看取りを支援する上で何を最優先にしたいか？また、そのためにはどんなことが必要か？意見交換を行ないました。

【参加者職種】

職種	人数	職種	人数	職種	人数
医師	3	社会福祉士	7	OT・PT・ST	3
看護師(訪問看護)	11	薬剤師	4	歯科衛生士・技工士	6
看護師(医療機関勤務等)	9	ケアマネジャー	17	栄養士	2
介護福祉士(訪問介護)	6	福祉用具専門相談員	3	その他(行政職員等)	5
介護福祉士(施設勤務等)	3	参加者人数		79 名	

担当者の発表には、余命宣告を受けている本人から「どうやったら元気になれる？」と問われ返す言葉に困った、医療従事者として何も専門的なことはできず傾聴するしかなかった、看取りまでの過程を通して本人と家族の気持ちの揺らぎをくみ取って関わることの難しさを痛感した、患者さん・利用者さんの立場に立って想像する力が必要だった、本人の意向に沿ったサービスが継続できた、ケアマネジャーとの連絡が取りやすくスピーディーに対応ができた、多職種・他事業所との連携により不安なく対応できたなど、様々なお話がありました。

《ご発表いただいた担当者の皆さん》

【参加者アンケート記載内容】※一部掲載

- それぞれの職種の発表により、在宅での看取りの間の生活をイメージする事ができた。それぞれの専門性を感じることができた。
- 連携の大切さ、また各事業所が職務を全うすることが、本人だけでなく家族の支援にもなったと思う。自分も「また明日から頑張ろう」と思った。
- 看取り支援は大変難しい内容で、関係者皆で考えることが重要になると再認識した。終わりなき課題。
- いろんな職種の方が様々なサービスを提供し、患者さんに寄り添う気持ちと知識を持っているとわかった。
- 他の職種の視点の違いや担う役割に気づいた。自分自身の課題もわかった。
- 職種は違っても、同じ目標に向かって関わっていたことを確認できた。
- 情報共有はとても大切だが、職種・立場により重要視する情報が異なる。しかし、「核」となる情報は同じ。
- 本人様の希望に沿うよう、多職種の方が力を合わせた結果、本人様・ご家族様の満足がいく最期になったと思った。
- 利用者さんの揺れる気持ち、否定的な感情を共にする時、どうして良いかわからなくなる。他職種で話し合う場があると、自分の経験が濃いものになると感じた。

事前に事例のご家族から、在宅看取りを経験されて感じたことをお伺いしました。※一部掲載

- 十分な準備をしたつもりでも、在宅看取りの現実は想像以上に厳しい。しっかりと相談や話し合いが必要。
- 本人の希望や不安を広い視野で捉えてもらえたことで、制度や規則などを活用し様々な支援が受けられた。
- 地域住民へ、介護保険制度をはじめ医療や介護についての知識や活用方法の周知・普及が、もっと必要。

グループワークの中では、本人の想いを最優先にしたいとの意見が大多数でした。相手の想いに共感し支援を考えるには、支援する側の知識・技術や経験をさらに深めていくこと、タイムリーで確実な情報共有の必要性など話し合われました。